


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



2月の銅の概況及び3月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	8,500-10,000ドル	●
建値	920-1,100円	●
為替	104~106円	円高
(1か月間TTM)		

【電線】

前年比-6.5%の5万0,700 t。
内訳は、国内が-6.6%、輸出が-0.5%。

【輸出】

電気銅輸出が+1.8%の4万7,976 t。
銅スクラップが+21.6%の3万1,577 t。

【輸入】

電気銅が-84.6%の200 t。
スクラップが+0.8%の9,534 t。

【見通し】

【自動車】

1月の自動車生産が-10.1%。
2月国内販売台数が前年比-2.2%。
生産・販売ともに減少。生産減は半導体不足と地震によるものか見極め必要。

【伸銅品生産】

1月の伸銅品生産量は5万8,869トン、前年同月比+0.8%、26か月ぶりに生産量の対前年同月比で増加に転じた。

5G通信と自動車向けが牽引している。

【電線】

前年比-6.5%の5万0,700 t。
内訳は、国内が-6.6%、輸出が-0.5%。
輸出のマイナスにより減少幅が減少。
銅輸出は、相場の急騰や米中景気回復期待から増加。
銅輸入は、電気銅が相場の急騰から大幅減。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が86万から102万まで急騰した過程で放出された。
また伸銅品生産の減少に伴い発生も減っており、今後も玉は不足する。

需要面に関して、前月から一転、国内自動車生産販売の減少したがこれが半導体不足や地震によるものであると考えておりある時点で急回復しそれに伴い需給はひっ迫するのでは？

【LME・為替予想】

今月は①米金融緩和の長期化観測と②ワクチン接種による感染拡大抑制問題に左右される。

①に関してはパウエル議長がインフレについて「大部分で弱い」との見解を示し「米経済は雇用とインフレ目標に達するまで長い道のりがある」と述べたことから金融緩和が当面維持されるのではないかと。

②に関しては、米国で2月中旬時点で1日当たりの接種回数が、7日間の平均で140万回に達するなど、ペースが加速。拡大が治まるのは時間の問題ではないかと。

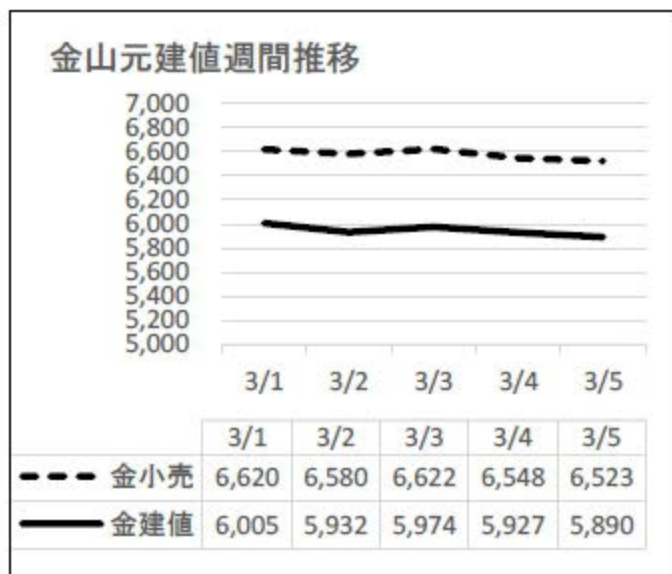
これらを踏まえた1月の銅価格は、8,500-10,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は104円~106円(TTM)台を予測。
銅建値に関しては920-1,100円程度と予測している。

(「2月の銅の概況及び3月の見通し」おわり)

金銀山元建値週間推移

3月1日~3月25日



	2月平均	建 値	小 売
金(¥/g)		6,169.94	6,818.28
銀(¥/kg)		94,130	105,661

